

埼玉県立浦和第一女子高等学校 女性をめぐる諸問題から世界の諸課題へ、SGHとSSHの融合で迫る（埼玉県）

実施体制の概要

- 全校生徒数：約1,087名
(うちSGH対象生徒 全員対象とする)
- SGH対象学科：全員対象とする
- HP：
<https://urawaichijo-h.spec.ed.jp/ichijo/>
SGHの取り組みはこちら
<https://urawaichijo-h.spec.ed.jp/ichijo/SGH>
- SGH委託費用総額：約3,837万円
(H28～R2：約567万円～約1,000万円)
- 校内の体制：当初は教科・分掌横断のSGH委員会により運営。
3年目以降は探究学習部にSGH担当(4名)。
- 国内連携機関：
東京外国語大学、筑波大学、その他産学にわたり様々な連携
- 連絡先
✉ p292031c@pref.saitama.lg.jp
048-829-2031(代表)

何を目指したか

未来のための「女性学」の探究を軸に、国際的視野を持つことで地球的課題を発見し問題解決を図ることのできる女性リーダーの育成

ツールのポイント

- 1 地球規模の社会的課題に挑戦する女性の生き方を学ぶ「モデル研究」から、SDGsの諸課題からテーマをみつけ論じる「探究論文」へ接続。さらにその後の「探究グループ活動」ではフィールドワークなどの実地調査を義務づけ探究を深化させるとともに、SSHの科学的テーマも取り込むことで、SGHとSSHの融合を図っている。

SGH事業実施に必要な資源



■指導が一部の教員に限定されたものにならないよう、探究活動の指導にはできるだけ多くの教員が関わるように留意し、学校全体として取り組む体制を構築するとともに継続性を向上。



■事業費は極力生徒向けのコンテンツに充てるため、国内外の派遣費用や外部講師の謝金などに重点的に使用。



■3年次では進路保証の観点から「総合的な探究の時間」を設けず、代わりに教科学習の中に探究的要素を盛り込むことによって、SGHの取組を担保。



■SGHの指導を通じて目指す方向性が、今後求められる「探究的な学び」へと繋がっていくという認識が教員間に浸透し、前向きに授業改善が図られた。

Plan

ツール作成の背景

- SSHを平成16年から継続していたこともあり、探究的な学びへの習熟も見られていた。しかし活動が理系科目であること、対象者を限定していたため、探究的な学びを全校的に推進することを目的として、SGHの活用を目指した。SGHの申請時期には学校全体で海外との交流関係を構築しており、台湾やイギリスとの姉妹校協定が進められていた。教員の中にアクティブ・ラーニングなど探究的な学びを実践していた者が複数いたことも促進要因の一つである。
- 全国でも少ない公立の女子高等学校ということから、女性というテーマはかねてから自然と意識されていた。「女性学」というキーワードは、SGHへの申請過程やジェンダーの問題への社会的機運の高まりを通じ、より明確に言語化されていった。

SGH事業計画の流れ



Do

ツールの解説

✓ モデル研究

- 取組概要
 - 1年生の前期に、**国際的に、社会的課題の解決に取り組む女性チェンジメーカー**を対象として、自らの「**ロールモデル**」として**その人物の生き方や、社会課題に対する問い、解決に向けた挑戦等を調べまとめる**「モデル研究」を実施する。
 - 図書館に「モデル研究」のコーナーを設置し探究を支援する。
- 成果
 - 今を動かすチェンジメーカーの生き方や活動を通してSDGsの諸課題に迫ることで、1年生後半の探究論文のテーマ設定が円滑化した。

✓ SSH×SGH×SDGsによる探究

- 取組概要
 - 2年次には、SDGsの諸課題をテーマに掲げた21のグループを設定し、フィールドワークやインタビューなどの調査活動を含め、深化した活動を行う。
 - SSH、SGHの内容を統合し、探究活動に十分な時間を確保。かつ、地球的課題(SDGs)の幅広い探究が可能になった。
 - 3年次には、教科の枠を超え、英語・古典・日本史・世界史・地理・体育で「女性」に関する授業を実施し、「女性としていかに生きるべきか」将来にむけて内省を図る。

Check

取組内容の評価

- 開始当初のモデル研究は、対象とする人物の限定等を行っていなかった。そうしたところ、過去の偉人等を対象とするケースが多かった。現代的な課題への挑戦や、生き方のロールモデルとなることを重視するため、4年目以降は、同時代的に活躍、挑戦する女性チェンジメーカーを対象とする方針を明確化した。
- SGHでの取組が、「探究的学習の時間」のカリキュラム開発に繋がった。

Action

指定期間終了後に向けて

- SSHとSGHの双方の理念を融合させて探究活動のプログラムを組んだことで、指定終了後は総合的な探究の時間のプログラムとしてスムーズに移行できる。
- 新型コロナウイルス感染症対策で、海外を含めた校外での活動が制約されている中、指導の一部をオンライン化したり、他校とのオンライン上の交流会を行っている。